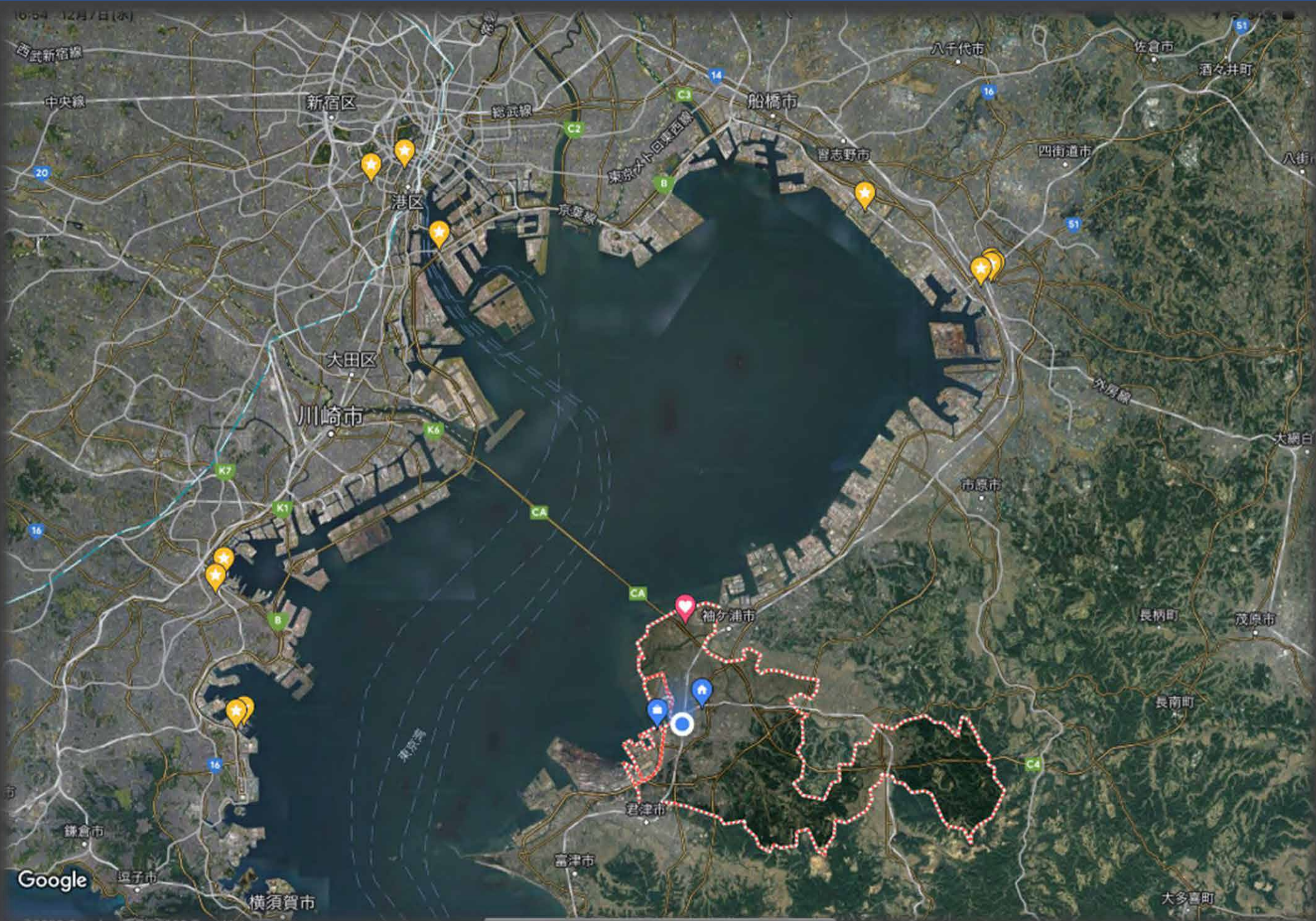


オーガニックなまちづくり ～持続可能な産地形成へ～

木更津市長 渡辺 芳邦





地方創生＝地域の活性化と若者の獲得に向けた戦略

自然環境をベースとした「魅力」を活かしながら、「癒し」や「潤い」、「多様な暮らし方」、「資源の域内循環」を充実させ、さらなる活力の創造へ！

～未来への「キーワード」～

大都市に依存するのではなく、
特徴的な要素の上で、経済的・文化的に
「自立」

豊かな自然、産業、農林水産物等
本市が有する資源の地域内の
「循環」

多様な人、地域、企業、
自然や全ての生き物の
「共生」

～「循環」と「共生」、その上に成り立つ「自立」～

「オーガニックなまちづくり」の定義・基本理念

「木更津市 人と自然が調和した持続可能なまちづくりの推進に関する条例」
(通称：オーガニックなまちづくり条例／平成28年12月15日施行)

【オーガニック】(条例第2条)

- 持続可能な未来を創るため、地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする考え方。

【オーガニックなまちづくり】(条例第2条)

- 地域社会を構成する多様な主体が一体となり、本市を、人と自然が調和した持続可能なまちとして、次世代に継承しようとする取組。

基本理念 (条例第3条)

- ① 地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする人を育むこと。
- ② 自然と共に発展する持続可能なまちの基盤を整備すること。
- ③ 多様なあり方を認め合い、支え合う、自立した地域社会の仕組みを構築すること。

第2期オーガニックなまちづくりアクションプラン

【木更津SDGs推進モデル ORGANIC CITY PROJECT】

～2030年のあるべき姿～

自然に寄り添い、学び、経済が循環する自立した共生社会

基本理念1 地域、社会、環境等に配慮し、
主体的に行動しようとする人を育む

経済

経済循環を高める
食×農プロジェクト

基本理念3 多様なあり方を認め合い、支え合う、
自立した地域社会の仕組みを構築する

支え合いによる
防災・減災プロジェクト

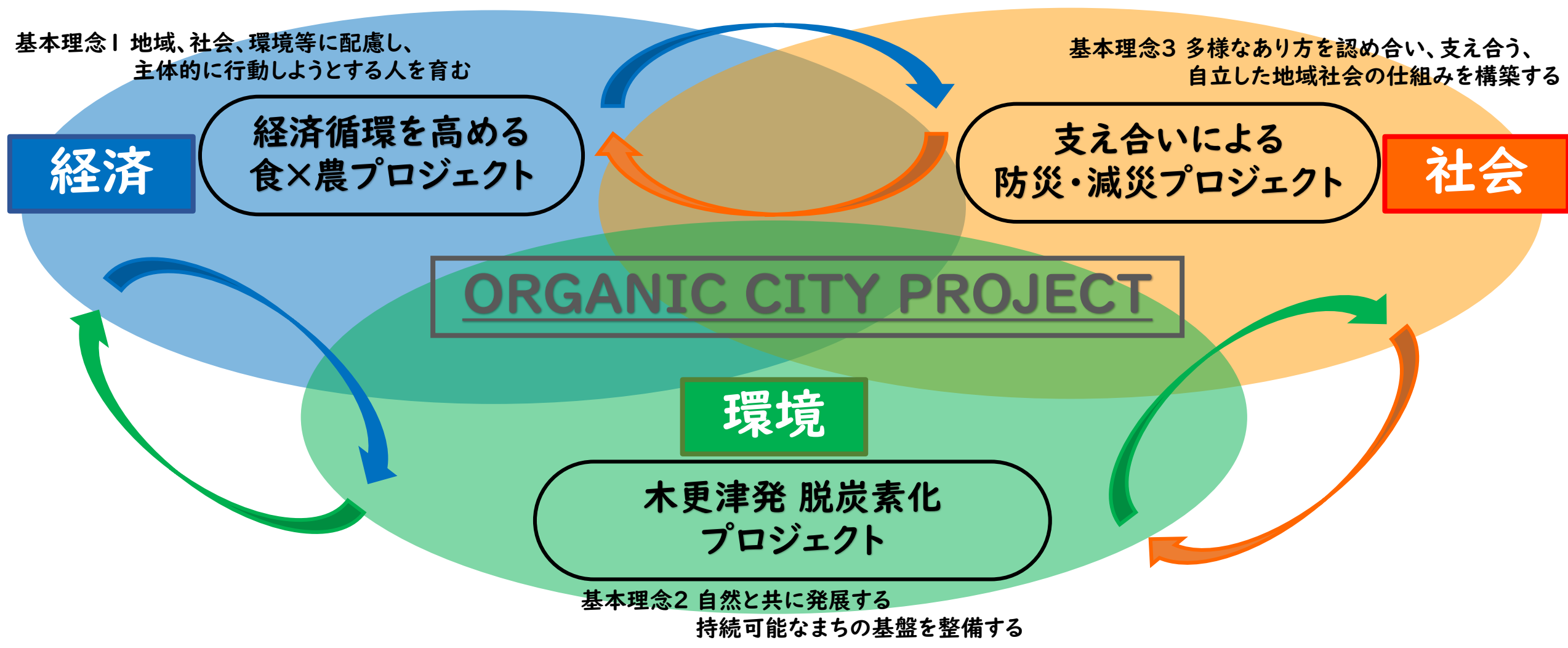
社会

ORGANIC CITY PROJECT

環境

木更津発 脱炭素化
プロジェクト

基本理念2 自然と共に発展する
持続可能なまちの基盤を整備する



第2期オーガニックなまちづくりアクションプラン

「経済循環を高める食×農プロジェクト」の概要

目標1 地産地消の暮らしの定着

食育の推進

- 学校給食の地産地消の推進
- 有機米を使用した学校給食の提供
- 地域食材に親しむ機会の醸成
- 食育の啓発



目標2 安心・安全でおいしい木更津ブランドの確立

環境保全型農業の推進

- 有機米の生産促進
- 有機農業の推進
- ICTを活用した鳥獣被害対策



産業・創業支援の充実

- 6次産業化の推進
- 木更津市産業・創業支援センター（らぶ-Biz）支援の充実



域内消費の拡大



- 電子地域通貨アクアコインの普及促進

第2期オーガニックなまちづくりアクションプラン

学校給食提供に向けた有機米プロジェクトスタート

(2019年)



水田除草ロボット



水位計



実施主体→木更津市有機農業推進協議会

- ・農業者14名(令和4年度)
- ・木更津市農業協同組合
- ・NPO法人民間稲作研究所
- ・井関農機株式会社
- ・千葉県君津農業事務所
- ・木更津市

経営耕地面積1,271ha
(内訳)

田 : 1,078ha (約85%)

畑 : 153ha

樹園地: 40ha

(2020年農業センサスより)

「学校給食提供に向けた有機米プロジェクト」に係る財政的支援

- 木更津市では、「学校給食提供に向けた有機米プロジェクト」の推進に向けて、①有機米栽培技術の早期確立、②有機米栽培に必要な資機材等の導入、③有機米を学校給食に提供するにあたっての原材料費の差額、を財政的に支援。
- 慣行栽培とは異なる栽培方法による生産者の負担軽減、また、保護者の負担増となる給食費に転嫁するのではなく、原材料費仕入れに係る差額分を補填。

年 度	①栽培技術の確立	②資機材等の導入支援	③原材料費の差額補填
2019	有機米生産促進事業費 (委託先：NPO法人民間稲作研究所： <u>1,848千円</u>)	・ポット用田植機購入補助 ・ポット用播種機購入補助等 (<u>4,219千円</u> うち県補助1,520千円)	学校給食を活用した有機米供給促進事業費： <u>321千円</u> (市内30の公立小・中学校の学校給食に <u>3日間提供</u>)
2020	有機米生産促進事業費 (委託先：NPO法人民間稲作研究所： <u>1,320千円</u>)	・ポット用苗箱購入補助等 (<u>788千円</u>)	学校給食を活用した有機米供給促進事業費： <u>2,011千円</u> (市内30の公立小・中学校の学校給食に <u>16日間提供</u>)
2021	有機米生産促進事業費 (委託先：NPO法人民間稲作研究所： <u>1,155千円</u>)	・ポット用田植機購入補助 ・水位計購入補助等 (<u>3,837千円</u> うち県補助1,012千円)	学校給食を活用した有機米供給促進事業費： <u>7,620千円</u> (市内30の公立小・中学校の学校給食に <u>52日間提供</u>)



「オーガニックビレッジ宣言」に向けた木更津市の取組

- また、木更津市では、2019年度からスタートした「学校給食提供に向けた有機米プロジェクト」のさらなる推進、及び有機農業の産地化を目指し、「みどりの食料システム戦略緊急対策事業（有機農業産地づくり推進緊急対策事業）」に応募し、採択される（国の令和3年度補正予算）。
- 「オーガニックビレッジ」宣言に向けて、上記の交付金を活用し、今年度以下の取組を推進。

2. 試行的取組の実施

1. 検討会の開催 (多様な主体の参画)

【生産関連の取組】

- 有機的管理ほ場で生産している米の収量向上に向けた実証
- 大豆・甘藷の有機的管理の実証及び技術講習会の開催
- 有機JAS認証制度への理解を深めるための講習会の開催 等

(市内生産者、JA木更津市、井関農機株式会社、JASCERT（認証機関）等)

生産

【消費関連の取組】

- 市内公立小学校における自校炊飯の実証
- 市内公立小学校を対象とした食育事業の展開
- 「ふるさと納税返礼品」への活用 等

(教育委員会、公立小学校、SoleilL、井関農機株式会社等)

消費

【流通・加工関連の取組】

- 有機的管理ほ場で生産された米の活用
- 市内の有機農産物を活用した新商品の開発
- 市内の有機農産物を使用した新メニュー開発 等

(道の駅、市内飲食店、市内高等学校、市内生産者等)

流通・加工

「オーガニックなまちづくり」を活かしたオーガニックビレッジの推進①

～「きさらづ学校給食米」提供の推進～ 生産関連の取組み

○ 収量向上に向けた土壌診断キットの活用

有機米ほ場における適切な施肥設計の実施し、翌年度の収量向上を目指す。



○ 有機JAS認証の理解を深めるための講習会

「きさらづ学校給食米」ほ場の有機JAS認証取得に向け、安心、安全、環境にやさしい農業の推進、さらには、生産者の販路拡大に向けた、ブランド力のアップにつなげるため

「オーガニックなまちづくり」を活かしたオーガニックビレッジの推進①

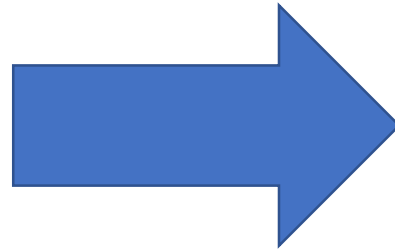
～「きさらづ学校給食米」提供の推進～

加工関連の取組み

○ くず米を利用したみりんの作成

「きさらづ学校給食米」で学校給食に
提供出来なかったおこめ…

くず米 200キロ使用



白米 100キロ

令和4年度産米 みりん



1.8ℓボトル 55本～66本

「オーガニックなまちづくり」を活かしたオーガニックビレッジの推進①

～「きさらづ学校給食米」提供の推進～ 消費関連の取組み

○ 「きさらづ学校給食米」の商標登録 ○ 自校炊飯の実証

お米のブランド化に向けた商標登録

○ 米袋の作成

ふるさと納税返礼品への活用。

学校近隣で獲れたお米を自校炊飯により
温かいうちに提供。(小学校2校実施)
給食残渣率の変化などを調査



「オーガニックなまちづくり」を活かしたオーガニックビレッジの推進②

～水稻以外の有機農業推進～

生産関連の取組み

約15アールの土地を活用し、
大豆・甘藷の有機的管理の実証

大豆5kg 播種

甘藷100株 定植

今後、

- ・有機的管理の検証

- ・収穫物の活用

を予定



「オーガニックなまちづくり」を活かしたオーガニックビレッジの推進②

～水稻以外の有機農業推進～

加工関連の取組み

企業・学校と連携した市内有機農産物を使用した新商品開発



・道の駅「木更津うま
くたの里」とのコラボ
商品開発

・木更津産有機れん
こんを使用

・令和4年12月下旬
発売予定

・その後も関連商品を
発売



～ ニョッキ ～

連携企業のKURKKU FIELDSで11月に限定販売

【産学連携】

有機サツマイモを活用した新商品開発



～ クッキー ～

ORGANIC CITY FESTIVALで限定
300個を販売、木更津東高等学校の
生徒が自ら販売

「オーガニックなまちづくり」を活かしたオーガニックビレッジの推進②

～水稻以外の有機農業推進～

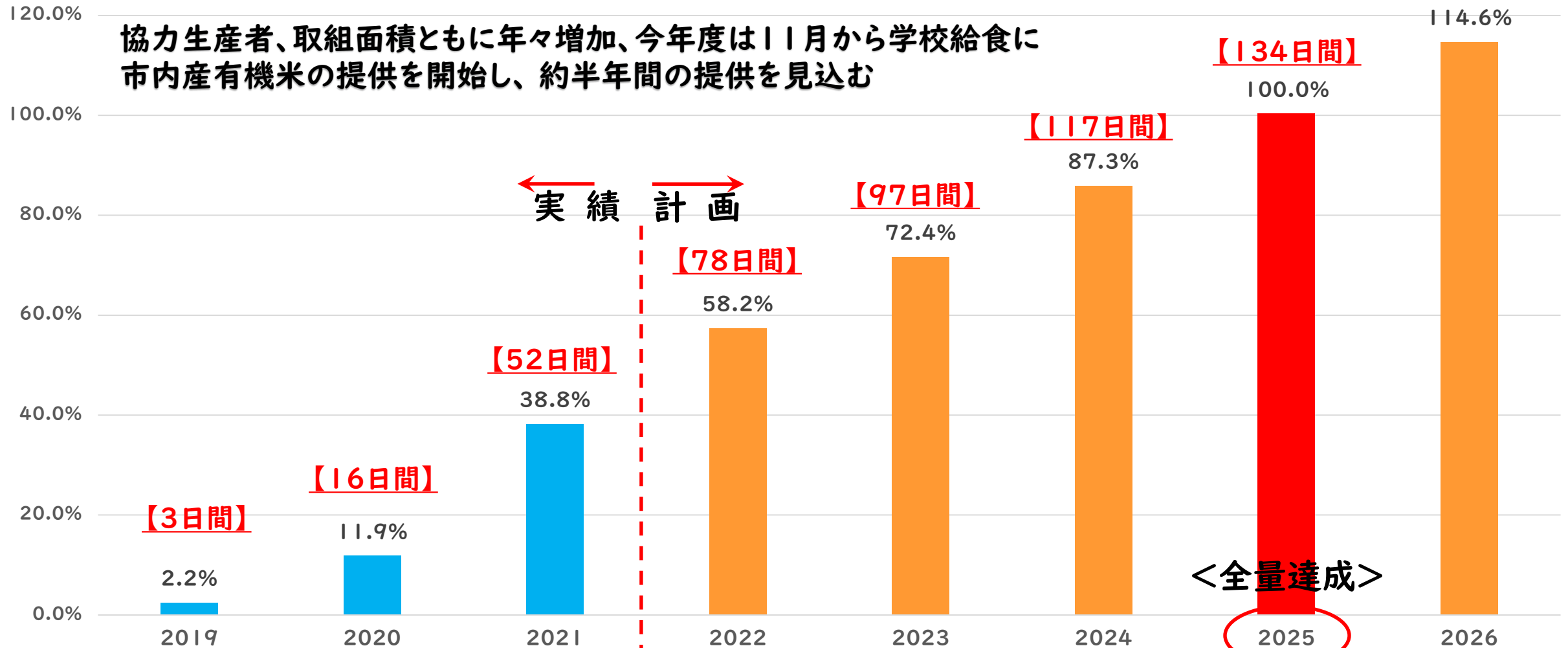
消費関連の取組み



- ・大学生による市内小学校での食育授業を開催
- ・「食」とおしてSDGsや環境問題について考える機会を子どもたちへ提供
- ・2日間の授業を実施、これからゲームなどを交えながら、まとめを実施予定

木更津市の「学校給食提供に向けた有機米プロジェクト」

【公立小・中学校の学校給食における有機米提供割合】



※木更津市では、週3.5回以上が米飯給食のため、年間最大191日間の給食のうち米飯給食は134日程度となる。

ご清聴ありがとうございました